

1 単元名 物語の感想をまとめて伝えよう

学習材名 「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書 3年下)

2 単元について

(1) 学習者について

児童は、国語の学習に意欲的に取り組んでおり、文学的な文章の学習では、人物の気持ちを想像して話したり書いたりしている。また、「きつつきの商売」の学習では音読発表会にも取り組み、班ごとに情景や会話の表現の仕方を話し合いながら練習した。

児童は、これまでに文学的な文章の「読むこと」については、「きつつきの商売」の学習において、二つの場面の様子や音を想像し、音読の仕方を工夫しながら学習を進めてきた。また、「もうすぐ雨に」の学習では、登場人物の行動や気持ちの変化について、行動を読む、場面と場面を比べて読む、繰り返しを読むなど、叙述を基に想像して読む学習をしている。児童は、登場人物の会話や様子からその気持ちを想像して読み、話し合いを通して深め、自分が気に入った場面を選んでそのわけを考えて書くことができた。しかし、場面同士の関係や場面の働きについて考え、登場人物の気持ちの変化をつなげて読む力はまだ十分ではない。

(2) 学習材について

本単元では場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して「感想をまとめる」言語活動を通して、互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方のよさに気付くことのできる資質・能力を高めていく。

本学習材「ちいちゃんのかげおくり」は、児童が初めて教科書で出会う、戦争を行っていた時代の物語である。児童が自分たちの生活とは遠くかけ離れた過去の出来事「戦争」や、当たり前と思っている家族との生活、命、未来などの「平和」を見つめることになる。しかし、本学習材は、戦争の悲惨さを直接表現している作品ではない。その点で場面の様子を想像しながら読み進めるとき、当時の時代背景を理解させる難しさがある。しかし、主人公が幼い女の子であり、家族との関わりを中心に物語が進行するため、児童はちいちゃんの心情がとらえやすい作品であると考えられる。ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの寂しさや恐怖、家族の帰りを信じながら一人で「かげおくり」をしながら力尽きてしまう哀しさなどを文章の言葉を手がかりに想像させ、感想文に生かせるように学習を展開する。

本単元で身につける資質・能力は、①場面の移り変わり結び付けて情景や心情を想像すること。②発表内容を共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことである。この力は、これから学習する文学的、説明的な文章を読む学習だけでなく、社会科や総合学習、また道徳やその他の学習活動に必要な資料を読み取ってまとめたり、自分の感想や考えを交流したりする活動に生かすことが期待できる。

(3) 指導に当たって

第一次では「つかむ」段階として、「かわいそうなぞう」の感想文を提示し、感想文の構成と、書く内容について確かめる。そのうえで、感想文を書いて交流することを目標にして学習課題を設定し、学習計画を立てていく。

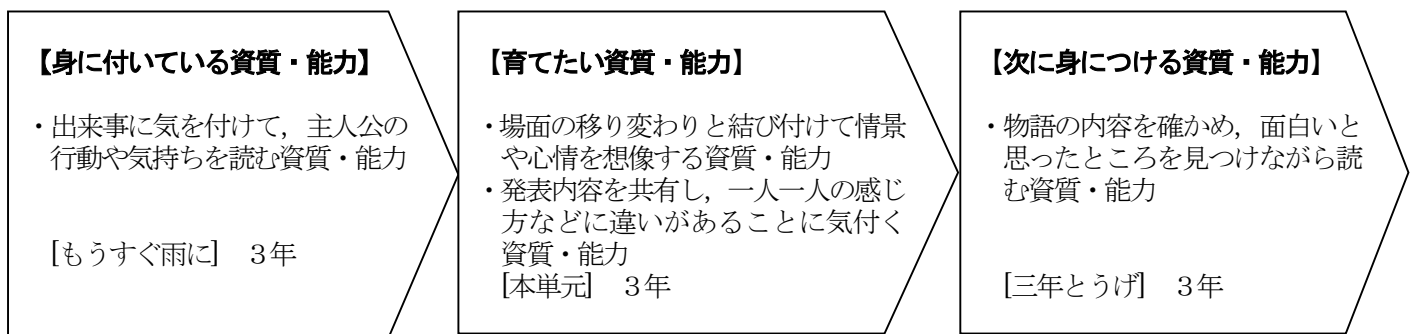
第二次では「きく・あらわす」段階として、会話や行動の叙述から、出征するお父ちゃんや見送るお母ちゃんの不安な気持ちと無邪気にかげおくりを楽しむちいちゃんやお兄ちゃんの気持ち、一人ぼっちになってしまってお母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを待つちいちゃんの気持ちを読む。また、一の場面と四の場面、二つの「かげおくり」を比較し、「ちいちゃん」の行動や、「ちいちゃん」を取り巻く状況がどのように変わっていったのかを捉える。そして、五の場面に登場するものと比較しながら、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて考えさせる。

第三次では「いかす」段階として、感想をまとめて交流する。感想文は、好きな場面で感じたこととその理由を「初め」「中」「終わり」の構成で書く。また、感想文を交流させることで一人一人の感じ方の違いに気付かせる。

### 3 単元の指導目標と評価規準

	指導目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○言葉や表現に着目して読み、進んで感想を書こうとする。	・物語の中で起こる出来事に興味をもって読もうとしている。
読む力	◎場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むことができる。(ウ) ○物語を読んで感想を交流し合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(オ)	・場面の移り変わりに注意し、登場人物の行動や心情、情景など場面に着目しながら感想文にまとめている。 ・感想文を発表し合い、友達との考え方や書き方に違いがあることに気付いている。
言語についての 知識・理解・技能	○文章中で使われている言葉に注目し、表現するための新しい語句を増やし、使うことができる。【(1) イ (ア) (オ)】	・「言葉のたから箱」を参照にしたり、友達の発言を聞いたりして、感想を表す言葉を増やしている。

### 4 本単元に係る資質・能力の系統性



5 学習指導計画 (全12時間)

指導過程	主な学習活動	【評価規準】(評価方法)
<p>第1次 感想文に書く内容を捉え、学習計画を立てる。 (2時間)</p>	<p>①「かわいそうなぞう」の感想文から、好きな場面とその理由を書くことを確かめる。 ②学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>【関・意・態】モデルの感想文から、好きな場面とその理由を書くことを理解している。 (発言・ノート)</p>
<p>第2次 場面ごとのちいちゃんの状況や心情を読む。  二つのかげおくりを比べて話し合う。  場面の役割をとらえさせ、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて考える。 (6時間)</p>	<p>③「ちいちゃんのかげおくり」の全体構成を捉える。 ④出征するお父ちゃんや見送るお母ちゃんの不安な気持ちと無邪気にかげおくりを楽しむちいちゃんやお兄ちゃんの気持ちを読む。 ⑤⑥一人ぼっちになってしまった気持ちやお母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを待つちいちゃんの気持ちを読む。  <b>⑦二つの「かげおくり」を比べて読み、ちいちゃんの行動や状況がどのように変わったかを読む。(本時)</b>  ⑧ちいちゃんが失ったものとちいちゃんがいなかった場面に登場するものを比較しながら、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて考える。</p>	<p>【関・意・態】場面ごとによって変わる状況を捉えながら、ちいちゃんの気持ちを読もうとしている。 (発言・ノート) 【読ウ】人物の行動や会話、周りの状況に着目ながら読むことでちいちゃんの家族の気持ちを捉えている。(発言・ノート) 【読ウ】叙述を基に空襲の恐ろしさを捉え、人物の行動や会話に着目しながら読むことで、一人ぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを想像している。 (発言・ノート) 【読ウ】一と四の場面のかげおくりを比較し、ちいちゃんの行動や、ちいちゃんを取り巻く状況が大きく変わっていることについて、叙述を基に読んでいる。 (発言・ノート) 【言(イ(イ))】漢字と仮名では音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なることを理解している。</p>
<p>第3次 学習を通して得られた感想をもとに感想文を書き、交流する。 (4時間)</p>	<p>⑨⑩「初め」「中」「終わり」の構成を考え感想文を書く。  ⑪⑫感想文を読み合い、感想や書き方の違いについて交流する。</p>	<p>【読ウ】場面の移り変わりによってちいちゃんを取り巻く環境がどのように変わったのかを叙述を基に書いている。 【読ウ】一番心を打たれた場面とその理由を場面の移り変わりと共に書いている。 (ワークシート) 【言】自分の考えを表現するために必要な語句を用いながら書きまとめている。 (ワークシート) 【読ウ】友達との考え方の違いや書き方の違いに気付くことができる。 (発言・ノート)</p>

6 本時の指導 (7/12)

(1) 目標

二つの「かげおくり」を比較することを通して、場面の移り変わりによってちいちゃんを取り巻く環境の変化を捉えることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	◇評価 ・準備物
つかむ	1 学習課題をもつ。 (1) 前時までの学習を振り返る。  (2) 本時の課題を確認する。		<b>つかむ</b> ・ちいちゃんの一人ぼっちになった様子や、数日間お母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを信じて待っている様子を確認し、最初の場面と比べてちいちゃんを取り巻く状況が大きく変わっていることに気付かせ、課題へと結びつける。	・二と三の場面の絵
	二つのかげおくりをくらべて、 <b>そのちがいを</b> 考えよう。			
大きく・あらわす	2 学習課題を解決する。 (1) 四つの観点で、二つのかげおくりを比べる。 ・「だれと」 ・「いつ」 ・「どこで」 ・「ちいちゃんの気持ち」  (2) 考えたことを交流し合う。 <b>・一の場面のかげおくりから変わったところを話し合う。</b>	○場面の移り変わりによって変わっていく登場人物の行動や登場人物を取り巻く状況の変化  7分程度で話し合う。	・上下に区切って四つの観点を比べることにより、状況の変化を捉えやすいようにする。 ・ノートの板書と同じ表にまとめさせる。  <b>大きく・あらわす</b> ・二つのかげおくりの違いを本文の叙述に戻りながら確かめ、 <b>どんなことが変わったか</b> 話し合わせる。共感的に「聴き」それはなぜかを質問することを通して、理由を明らかにし、互いの考えを深化させるために「訊く」ことを求めたい。(4人のグループ)  ・ちいちゃんが、なぜそのような状況になったのか、二や三の場面を振り返りながら確かめさせる。 ・状況が変化した中でかげおくりをするちいちゃんについて感想を持たせる。	・一の場面と四の場面の本文  ◇かげおくりを比べて、ちいちゃんの行動やちいちゃんを取り巻く状況が大きく変わっていることについて、叙述をもとに読んでいる。(ノート)
いかす	(3) <b>変わったところを全体で交流し、感じたことを話し合う。</b>  3 振り返りをする。 学習の振り返りをする。		<b>いかす</b> ・グループ学習や全体交流を通して友達の考えから学んだことに視点を持たせ、かかわりの価値に意識が向くような振り返りをさせる。	

かだい  
ちいちゃんのかげおくり

二つのかげおくりをくぐらべて、そのちがいを考えよう。

一の場面  
いつ  
出征する前  
だれと  
家族四人で  
どこで  
おはかまいりの帰り道  
ちいちゃんの気持ち  
・楽しい遊び  
・うれしい  
・しあわせ

「だれが」の次にちいちゃんの気持ちを考えたかったので、順番を変える。

せんそう

四の場面  
ちいちゃんと天国の家族と  
ちいちゃんがなくなった時  
天国（花ばたけ）  
楽しい  
うれしい  
よかった

ちいちゃんの気持ちを考えながら、二つのかげ送りをはべる流れに変えた。

板書を簡略化する。

一と四のかげおくりで、かわったところ  
・家族がだれもいなくなった。  
・ひとりぼっち  
・体が弱っている  
・おなかがすいて、立っているのがやっと  
・みんなに会いたい気持ちでいっぱい

物語の感想をまとめて伝えよう

ちいちゃんのかげおくり  
あまんきみこ作

④ 二つのかげおくりをくぐらべて、そのちがいを考えよう。

一の場面  
いつ  
出征する前の日  
だれが  
家族四人  
ちいちゃんの気持ち  
楽しい  
うれしい  
またやりたい。

せんそう

四の場面  
ちいちゃんかなくなると日  
花ばたけ  
ちいちゃんと家族  
楽しい  
うれしい  
やっと会えた。  
楽しい

四の場面のかげおくりが、一の場面とちがうところ  
・ひとりぼっち。  
・とてもぐあいわるい。  
・ふらふらしている。  
・やっと家族に会えた。

